

平成30年度 決算

西宮のお財布事情

歳入は市税収入が増 歳出は公共施設の改修や更新などの経費が増

市は、平成30年度の決算をまとめました。皆さんの生活に身近な事業を行う一般会計を中心に決算の概要をお知らせします。

一般会計の歳入・歳出の差し引き残高は9億8380万円の剰余となりましたが、翌年度に繰り越した事業の実施に必要な財源を差し引いた**実質的な黒字は7億1206万円**となりました。市税収入、歳出総額を人口で割った市民1人あたりでは、市税負担が約17万9000円、支出は約35万5000円となりました。 ※人口は平成31年4月1日現在の推計人口

30年度決算のポイント

歳入 — 棒グラフ(左)

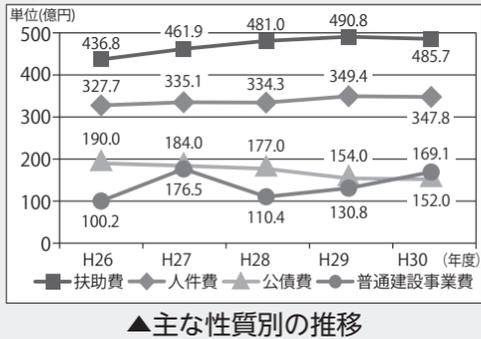
- 市税は、土地や株式の譲渡所得の増により、約11億円の増
- 市税収入の増などに伴い、地方交付税は約8億円の減
- 投資的経費の増に伴い、市債は約16億円の増

歳出(目的別) — 棒グラフ(中央)

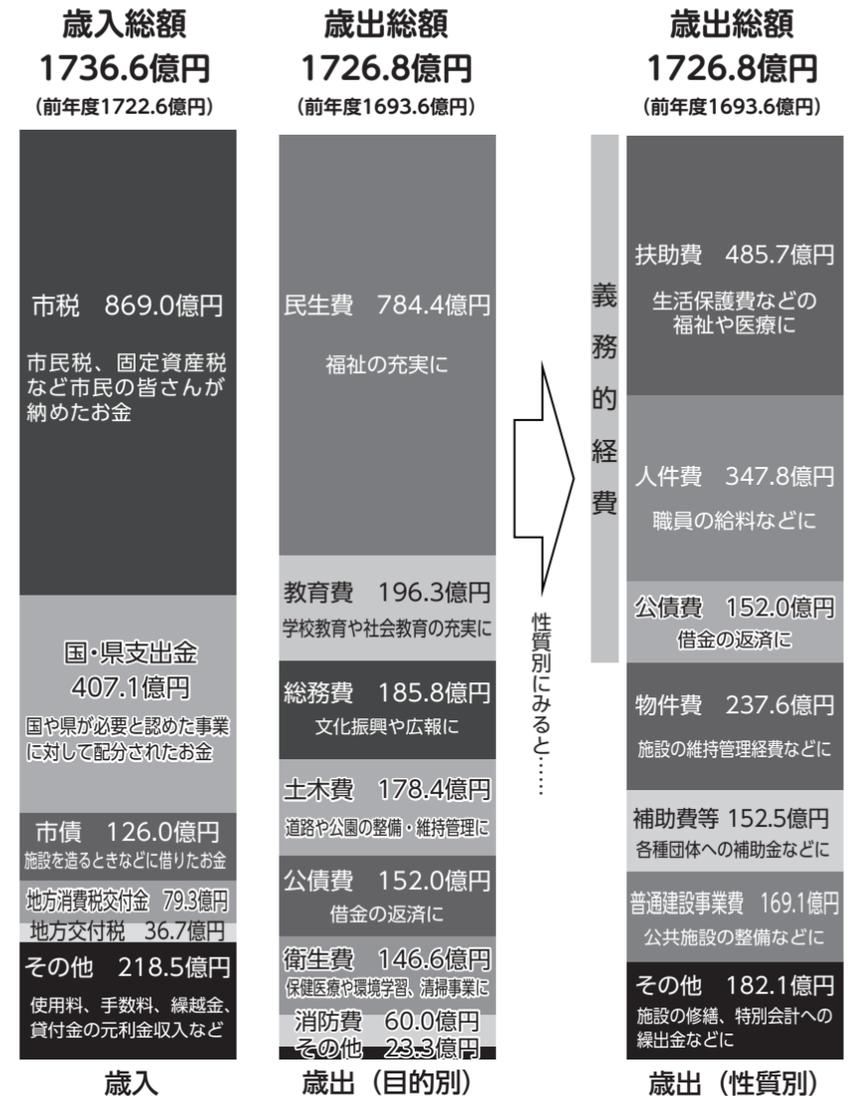
- 市役所本庁舎1階吹抜部の天井耐震化工事や第二庁舎(危機管理センター)新築工事の進捗などにより、総務費が約20億円の増

歳出(性質別) — 棒グラフ(右)

- 道路照明灯のLED化工事や小学校の改築工事などにより、普通建設事業費が約38億円の増
- 病院事業会計への補助金や出資金の増により、それぞれ補助費等が約4億円の増、投資及び出資金が約3億円の増
- 人件費は人事院勧告に基づく給与改定による増などがあつたが、退職手当が大幅に減となったことにより、約2億円の減



一般会計の決算状況



性質別にみると……

生活に身近な事業ピックアップ! 市のおカネ、こんなことに使われました

<h3>ごみの収集・処分</h3> <p>事業費 52億 130万円</p> <p>年間収集量は16万1264ト、家庭から出たごみは9万6457ト、1世帯当たり449kg、事業所から出たごみは6万4807ト、ごみ1kg当たりの収集・処分費用は43円でした。</p>	<h3>学校の整備</h3> <p>事業費 31億 321万円</p> <p>老朽校舎の解消や良好な教育環境のため、校舎の増改築工事を実施しました。また、外壁改修工事や屋上防水工事など、施設改修工事を実施しました。</p>	<h3>公園や街路樹の維持管理</h3> <p>事業費 13億 2375万円</p> <p>公園、児童遊園合わせて650カ所の維持管理や、公園樹・街路樹の維持管理を行いました。補修工事、修繕合わせて181件実施しました。</p>	<h3>市政ニュースの発行</h3> <p>事業費 6626万円</p> <p>年間23回発行し、1回当たりの平均配布部数は23万2300部でした。また、1部当たりの発行費用は約12.3円でした。</p>
---	--	---	---

皆さんからいただいた市税の中には、使い道を定めた次の3つの目的税があります。入湯税(約1673万円)は、観光の振興や環境衛生施設、消防施設などの整備に、事業所税(約13億3013万円)は、学校などの教育文化施設や保育所などの社会福祉施設の整備に、都市計画税(約75億9890万円)は、街路事業や下水道整備事業に使われています。問合せは税務管理課(0798・35・3229)へ。 ※カッコ内は30年度の収入額

財政状況

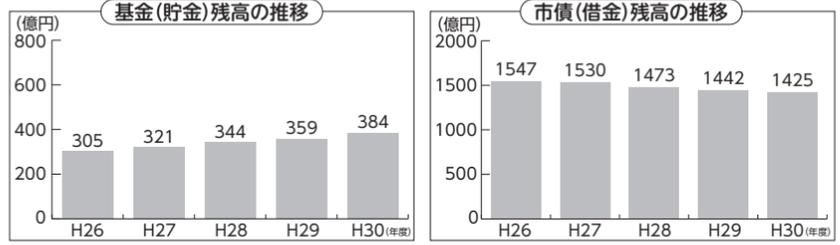
▷ **健全化指標は改善も、今後は足踏みの見込み**
財政の健全度を示す指数は基準値内に収まっています(数値が低いほど財政は健全)

指標	30年度	29年度	中核市平均	
健全化判断比率	実質公債費比率	2.9%	3.2%	6.1%
	将来負担比率	8.6%	18.9%	37.6%

- ▶健全化判断比率…国が定めた財政の健全度を示す指数
- ▶実質公債費比率…財政規模に対する1年間で支払った借返済額などの割合
- ▶将来負担比率…財政規模に対する将来市が支払う借返済額などの割合
- ▶中核市平均は30年度数値が未確定のため、29年度決算の数値を表示

市の貯金や借金

▷ **貯金は増加、借金は減少**



※基金・市債残高は、いずれも一般会計、特別会計の合計額

今後の見通し

- ◆ **社会保障関係経費や施設の老朽化対策にかかる経費が増加見込み**
これまでは、震災復興事業にかかる市債の償還が順次終了していたため、公債費が年々減少してきましたが、今後は大きな減少は見込めません。一方で、高齢化の進展に伴い介護にかかる経費の増加が見込まれることや、待機児童の解消等、子育て支援にかかる経費の増加など、社会保障関係経費の増大が想定されます。また、学校をはじめとする公共施設の老朽化に伴う改修や更新にかかる経費の大幅な増加も見込まれています。
- ◆ **効率的で効果的な行政運営が必要**
このように、歳出については今後増加していくことが想定される一方で、歳入については、国の景気動向の先行きに不透明感が根強く残る中、人口減少の影響などを考えると市税収入の大幅な増加は見込めません。そのため、遊休地の活用による財源確保や、事務の効率化による経費の削減に取り組むなど、効率的で効果的な行政運営ができるよう努めます。

平成30年度の決算の詳細については、市のホームページ(ページ番号:26894608)をご覧ください。 問 財政課(0798・35・3414)